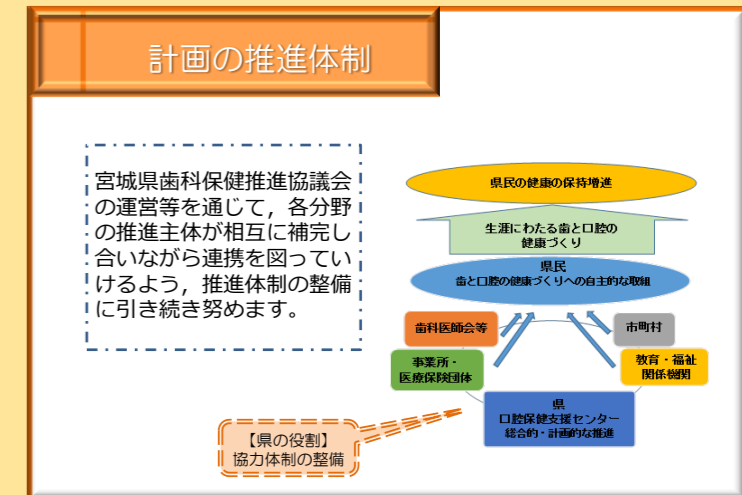
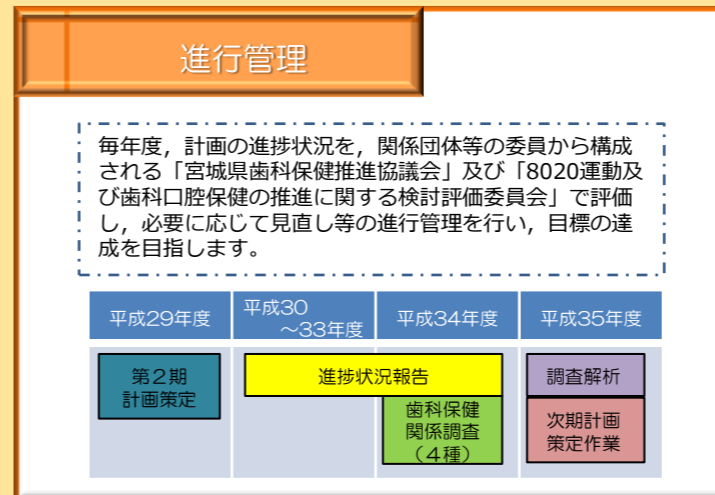
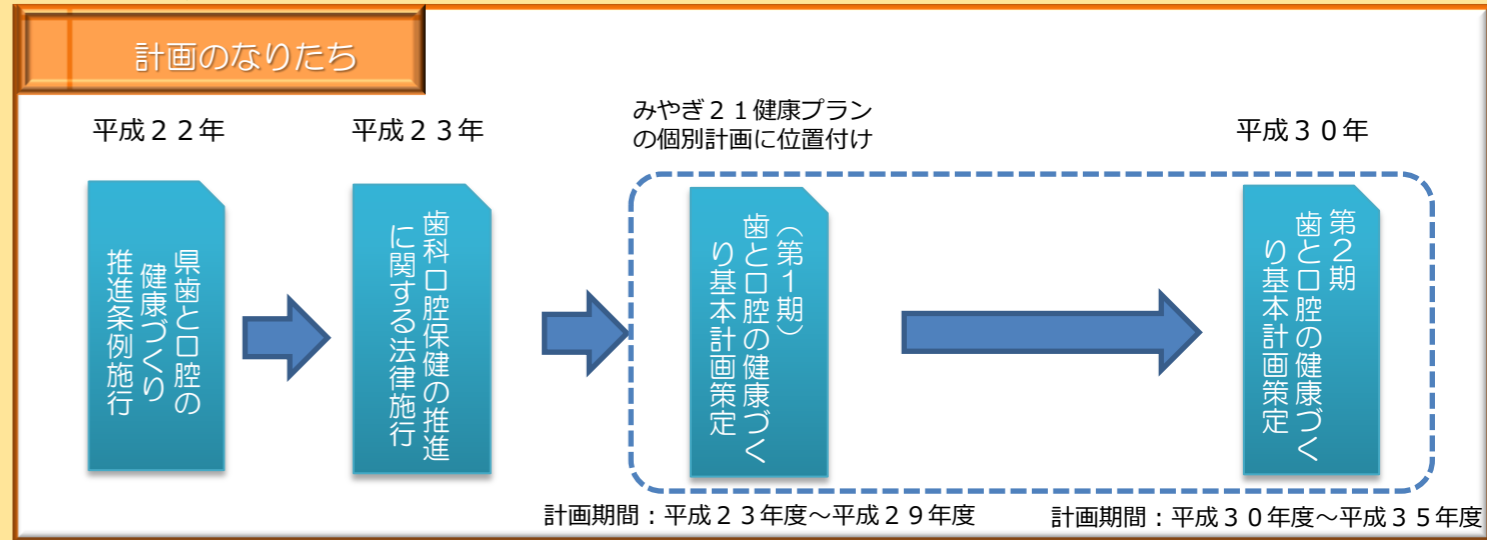


# 第2期宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画



## ◎宮城県歯と口腔の健康づくり基本計画評価指標 目標値・実績値一覧

テーマ	達成指標 (基準とする統計調査等)	第1期ベース ライン値	第1期目標値	第2期現状値	第2期目標値	目標値設定の考え方	
(概ね5歳) 妊産婦期・乳幼児期	口腔清むし歯の習慣づけ	3歳児の一人平均むし歯本数 (3歳児歯科健康診査結果(H23), 地域保健・健康増進事業報告(H27))	1.11本 (H23)	1本以下 (H28)	0.82本 (H27)	0.58本以下 平成27年度全国値(0.58本)	
	3歳児におけるむし歯のない人の割合 (3歳児歯科健康診査結果(H23), 地域保健・健康増進事業報告(H27))	72.6% (H23)	80%以上 (H28)	77.1% (H27)	90%以上	国の基本的事項の目標値(90%以上)	
	3歳までにフッ化物歯面塗布を受けたことのある人の割合 (幼児に関する歯科保健行動調査)	72.5% (H24)	80%以上	79.5% (H27)	94%以上	第1期の伸び率から算定	
	3歳児の間食として甘い食品・飲料を1日3回以上飲食する習慣を持つ人の割合 (幼児に関する歯科保健行動調査)	31.0% (H24)	15%以下	29.2% (H27)	15%以下	第1期目標を継続	
(概ね6歳～18歳) 学童期・思春期	永久歯むし歯と歯肉炎の予防	12歳児の一人平均むし歯本数 (学校保健統計調査)	1.5本 (H24)	1本以下 (H28)	1.2本 (H28)	0.8本以下 平成28年度全国値(0.8本)	
	12歳児におけるむし歯のない人の割合 (学校保健統計調査)	47.8% (H24)	全国平均を上回る値 H28全国平均64.9%	57.4% (H28)	65.0%	国の基本的事項の目標値(65%以上)	
	12歳児における歯肉に異常のある人の割合 (学校保健統計調査)	6.1% (H24)	全国平均を下回る値 H28全国平均4.1%	8.3% (H28)	4.1%以下	平成28年度全国値(4.1%)	
	12歳児における要治療・要精検児童生徒の受診率 (宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	-	-	今後把握	今後設定	今後把握した上で、目標を設定	
	過去1年間に歯科医院や学校で歯みがきの個別指導を受けた人の割合 (宮城県児童生徒の健康実態調査)	24.8% (H24)	30%以上	44.3% (H28)	63%以上	第1期の伸び率から算定	
	フッ化物配合歯みがき剤の使用割合 (宮城県児童生徒の健康実態調査)	53.1% (H24)	90%以上	96.3% (H28)	現状維持	現況値が高水準にあることから、現状維持	
	学校における昼食後の歯みがきの実施率 (宮城県児童生徒の健康課題統計調査)	-	-	今後把握	今後設定	今後把握した上で、目標を設定	
(概ね19歳～39歳) 青年期	歯周疾患の予防と口腔清掃の徹底	かかりつけ歯科医を持つ割合 (県民健康・栄養調査)	46.8% (H22)	70%以上	49.1% (H28)	70%以上	第1期目標を継続
	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	23.3% (H24)	30%以上	25.5% (H28)	30%以上	第1期目標を継続	
	歯間清掃用具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用する人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	45.5% (H24)	60%以上	38.2% (H28)	60%以上	第1期目標を継続	
	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合 (県民健康・栄養調査)	58.7% (H22)	100%	59.9% (H28)	100%	第1期目標を継続	
(概ね40歳～64歳) 壮年期	歯の歯周疾患予防対策と進	かかりつけ歯科医を持つ割合 (県民健康・栄養調査)	55.9% (H22)	70%以上	56.6% (H28)	70%以上	第1期目標を継続
	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	31.1% (H24)	45%以上	34.1% (H28)	45%以上	第1期目標を継続	
	歯間清掃用具(デンタルフロスや歯間ブラシ等)を使用する人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	57.7% (H24)	70%以上	53.8% (H28)	70%以上	第1期目標を継続	
	進行した歯周病(4mm以上の歯周ポケットを有する人)の人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	45.0% (H24)	40%以下	63.7% (H28)	40%以下	第1期目標を継続	
	60歳で24本以上歯を保持する割合 (県民健康・栄養調査)	38.6% (H22)	50%以上	54.3% (H28)	70%以上	「健康日本21(第2次)」の目標値(70%以上)	
	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合 (県民健康・栄養調査)	42.9% (H22)	100%	50.2% (H28)	100%	第1期目標を継続	
(概ね65歳～) 高齢期	口腔機能の維持・回復	80歳で20本以上歯を保持する割合 (県民健康・栄養調査)	31.8% (H22)	42%以上	39.8% (H28)	50%以上	「健康日本21(第2次)」の目標値(50%以上)
	かかりつけ歯科医を持つ割合 (県民健康・栄養調査)	66.1% (H22)	70%以上	69.4% (H28)	72%以上	第1期の伸び率から算定	
	定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	56.8% (H24)	60%以上	45% (H28)	60%以上	第1期目標を継続	
	進行した歯周病(4mm以上の歯周ポケットを有する人)の人の割合 (宮城県歯と口腔の健康実態調査)	63.5% (H24)	55%以下	63.3% (H28)	55%以下	第1期目標を継続	
	喫煙で歯周病にかかりやすくなると思う人の割合 (県民健康・栄養調査)	34.7% (H22)	100%	41.4% (H28)	100%	第1期目標を継続	
	介護老人福祉施設での定期的な歯科検診実施率 (老人福祉施設及び障害福祉サービス事業における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	-	-	39.1%	50%	国の基本的事項の目標値(50%) ※ 国は介護老人保健施設を含む。	
障害児・者の健康と口腔の充実	障害児・者入所施設での定期的な歯科検診実施率 (老人福祉施設及び障害福祉サービス事業における歯と口腔の健康づくり取組状況調査)	-	-	70.6%	90%	国の基本的事項の目標値(90%)	

【凡例】◎:改善し、目標達成 ○:改善しているが目標は未達成 △:変わらない ×:悪化している

各ライフステージ等の歯科保健の取組

- 妊産婦期
- 乳幼児期
- 学童期・思春期
- 青年期
- 壮年期
- 高齢期
- 障害児・者
- 食育との連携
- 口腔保健支援センター

現状

・3歳児の一人平均むし歯本数、むし歯のある人の割合とも第1期計画の目標を達成したが、依然全国平均より高い。  
 ・1日に3回以上間食をしている人の割合が減っていない。  
 (H24:31.0% → H28:29.2%) 等

図：3歳児一人平均むし歯本数(3歳児歯科健康診査結果)

・12歳児の永久歯の一人平均むし歯経験歯数、むし歯のある人の割合とも減少しているが、第1期計画の目標に達せず、全国でも下位の水準。(47都道府県中42位)  
 ・12歳児の歯肉に異常のある人の割合が第1期計画の目標に達せず、全国でも下位の水準。(47都道府県中46位) 等

図：12歳児の歯肉に異常のある割合(学校保健統計調査)

・年1回以上歯科検診を受け、歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合は変わらず、第1期計画の目標に達していない。  
 ・デンタルフロスや歯間ブラシなどを使用する人の割合は低下している。  
 ・職場での歯科検診を実施している事業所の数は増えていない。 等

図：進行した歯周病の人の割合(宮城県歯と口腔の健康実態調査)

・進行した歯周病の人の割合が、ほとんどの年齢階級で増えており、第1期計画の目標に達していない。  
 ・60歳で24本以上歯を持つ人の割合は、第1期計画の目標を達成したが、20本以上歯を持つ人の割合は全ての年代で全国平均より低い。 等

図：進行した歯周病の人の割合(宮城県歯と口腔の健康実態調査)

・80歳で20本以上歯を保持する者の割合は増加したが、依然全国平均より低い。  
 ・進行した歯周病の人の割合が第1期計画の目標に達していない。 等

図：80歳で20本以上の歯を保持する割合(歯科疾患実態調査等)

・特別支援学校児童・生徒のむし歯のある人の割合は、全国平均より低い。  
 ・障害児・者施設で年1回以上歯科検診を実施している割合は、障害児入所支援施設の国の目標値に達していない。  
 (宮城県：70.6%、目標値：90%) 等

図：むし歯のある人の割合(宮城県児童生徒の健康課題統計調査)

・子どもの肥満や大人の生活習慣病予防・改善、高齢者の低栄養状態など、歯科口腔保健に関する課題と食育との間には深い関連がある。

・ライフステージごとの啓発活動や研修を実施し、情報収集や課題整理を行っている。  
 ・評価の基礎資料となる各種調査の実施と分析を行っている。

課題

・定期的に歯科受診している人の割合の向上  
 ・保護者の理解を得て間食回数を減らすなど、望ましい食習慣や生活習慣の定着  
 ・フッ化物洗口の実施など、市町村の取組に関する地域差の縮小 等

・乳幼児期でも見られた地域間の差の縮小  
 ・ブラッシング指導や歯みがきなどの生活習慣の定着  
 ・セルフケアと定期的な歯科受診などの保健指導の啓発  
 ・肥満傾向を踏まえた対策 等

・若年代からの定期的な歯科検診による歯周病の早期発見、早期対応  
 ・事業所での対策実施と定着  
 ・喫煙や糖尿病などの生活習慣病と歯周病との関連についての理解の促進 等

・事業所の歯科検診実施割合の向上  
 ・歯周病健診を実施していない市町村の解消  
 ・喫煙や糖尿病などの生活習慣病と歯周病との関連についての理解の促進 等

・低栄養防止や生活習慣病などの重症化予防  
 ・在宅要介護者などへの訪問歯科診療を始めとしたサービスの充実  
 ・要介護高齢者の歯科保健に従事する人材育成の充実 等

・保護者や介助者による支援に向けた情報提供や啓発  
 ・相談窓口の設置や施設等との協力歯科医療機関を置くなどの連携・支援体制の整備

・食育の視点を採り入れた歯科保健施策の展開に向けた関係機関の連携

・人材育成や情報発信、課題の収集・分析に対する中心的な役割の実践

県の主な取組

・妊産婦期からのむし歯予防に対する意識の向上に向けた啓発  
 ・市町村による定期的な歯科健康診査体制整備への支援  
 ・フッ化物応用などの効果的な対策の普及  
 ・食育の視点を採り入れた望ましい食生活や生活習慣の啓発

・有効な教育方法や教材の普及、啓発など、学校全体で歯科口腔保健に取り組む体制整備  
 ・児童・生徒がむし歯や歯肉炎予防に主体的に取り組む意識を高める普及啓発  
 ・食育の視点を採り入れた望ましい食生活や生活習慣を身につけるための啓発

・職場の歯科検診や地域保健・職域保健との連携の推進  
 ・喫煙や糖尿病などの生活習慣病と歯周病との関連などの正しい知識の普及啓発

・歯科検診やかかりつけ歯科医を持つことの必要性の普及啓発  
 ・全市町村での歯周病検診の実施に向けた働きかけ  
 ・喫煙や糖尿病などの生活習慣病と歯周病との関連などの正しい知識の普及啓発

・全市町村での歯周病検診実施、受診率の向上に向けた働きかけ  
 ・情報提供や技術支援、人材育成などの支援体制の構築  
 ・入所施設や通所事業所などへの協力体制の整備

・施設を対象とした技術支援や人材育成  
 ・在宅歯科医療連携室の周知・浸透

・「望ましい食習慣の形成と定着」「生活習慣病予防のための食生活の維持と健康管理」など食育の視点を加えた歯科保健関係機関の連携推進

・フッ化物洗口の実施などの技術的支援や人材育成、情報発信機能の強化  
 ・市町村、保健所、歯科医師会など関係機関とのネットワーク形成

推進の方向性

- 方向性1  
乳幼児期及び学童期・思春期の歯科口腔保健の重点化
- 方向性2  
歯周病予防対策の強化
- 方向性3  
要介護者、障害児・者への歯科口腔保健対策の充実
- 方向性4  
施策の展開による連携づくりの推進